

第6学年 国語科 学習指導案（案）

日 時：令和〇年〇月〇日（〇） 〇校時
学 級：第6学年〇組
場 所：第6学年〇組教室
授業者：〇〇 〇〇

1 単元名 「わたしはこう見る 解説文で『鳥獣戯画』の魅力を発信！」

（教材名「『鳥獣戯画』を読む」、「この絵、わたしはこう見る」 光村図書 六）

2 単元の目標

- 話や文章の構成や展開、解説文の特徴について理解することができる。（知識及び技能(1)カ文や文章）
- ◎自分の見方や考えを伝えるために、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。（思考力、判断力、表現力等 B書くことイ構成の検討）
- ◎自分で解説文を書く参考にするために、高畑勲さんの解説文から、必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。（思考力、判断力、表現力等 C読むことウ精査・解釈）
- 解説文で魅力を発信するために、見通しをもって最後まで粘り強く取り組むことができる。（学びに向かう力、人間性等）

3 単元について

（1）児童の実態

4月の全国学力・学習状況調査結果で明らかになった本学級の重点事項が、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にして読むことである。全国の平均正答率に対し、本校は大きく開きがあった。5月には「時計の時間と心の時間」で、筆者の考えを読み取るために、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする学習に取り組んだ。図表に関係のある文を選ぶことはできたが、特に論の進め方について考え、文章全体を理解し、自分の考えをもつことが難しかった。

書くことの内容を取り扱った「未来がよりよくあるために」の学習では、まず初めに「どのような未来になってほしいか」と話し合い、全員が意見をもつことができた。その実現のためにどうすればよいのかを考え、友達と話し合う中で具体的な意見文を書くための材料も集めることができた。しかし、文章で表すことや、構成を考えることにつまずきがあり、書くことへの苦手意識から学習に取り組みにくい児童の姿も見られた。

（2）教材について

高畑勲さんの解説文「『鳥獣戯画』を読む」と、書くことの内容「この絵、わたしはこう見る」を複合的に取り扱う。歴史的価値がある『鳥獣戯画』の解説文から、高畑勲さんの見方、「何」の「どこ」に着目し、どのような「意見」や「評価」をしたのかと、論の進め方を捉え、自分の解説文に取り入れるために、本文を読む。読んで分かった高畑勲さんの見方や論の進め方を生かしながら書く。教材文と自分の解説文を行ったり来たり往還的に学習に取り組むことができる教材である。

高畑勲さんの解説文は、短文を繰り返すことで、臨場感・スピード感あふれる書き出しとなっている。子どもたちも書き出しの魅力に惹きつけられ、実感を伴った気付きとなるであろう。高畑勲さんが絵全体の中で、どの部分を取り上げているか、取り上げた対象の、何に着目しているか、どのようによいと感じているのかを文章から読み取らせたり、「絵巻物」について、どのようなものだと説明し、どう評価しているのかを考えさせたりしながら、じっくりと教材文に向き合わせたい。高畑勲さんは『鳥獣戯画』を「人類の宝」だと言い、そこに向かうために、つながっている絵を二つに分けて出し、再度つな

げて出していることや、細かい部分を見たり、全体を見たりする論の進め方など、読み手を引き付けながら分かりやすく伝える工夫があちこちに施され、児童が解説文を書くために参考にしたいと思える教材として適していると考えます。

自分なりの見方で絵の説明をするだけでなく、『鳥獣戯画』を高畑勲さんが「人類の宝」だと言ったように、児童にも『鳥獣戯画』を自分なりに評価し、そのことを伝えるための解説文を書かせたい。書くことを苦手と感じる児童でも、好きな場面を選ばせることで意欲を高め、「わたしはこう見る」という、自分なりの見方でよいという安心感から、取り組みやすいのではないかと考える。今後、図画工作科や音楽科の鑑賞の学習でも、自分なりの「わたしはこう見る」「わたしはこう聴く」として、書くことの学習内容が活かされる場面もある。

(3) 指導について

学習指導要領第5学年及び、第6学年

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。

〔思考力、判断力、表現力等〕

B 書くこと (1) イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。

C 読むこと (1) ウ 目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けたり論の進め方について考えたりすること。

以上の指導事項を重点的に指導する。

本単元の言語活動は、特に「C 読むこと」「(2) ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。」を具体化し、「解説文を書く」「解説文を書くために読む」ことである。

主体的に取り組むために

学習の主体者である児童が、必要感をもって学習に取り組むための仕掛けをしたい。まず、教科書P137、P139の絵の解説文に挑戦してみて、児童の「難しい」「分からない」を課題解決するための学習計画を立てる。どういうことが分かるか書けるのか「知りたい」を出発点にしたい。

また、絵に対する自分なりの解説を加えた意見をもつことで、高畑勲さんは絵をどう見ているのか知りたいという意欲につなげたい。児童がそれぞれ選んだ一番好きな絵でどんなところを解説したいのか明確にし、これまで、「書きたくても書き方が分からない」とつまずきのあった児童も、自分の選んだ場面絵で解説文を書くという目的をもって、高畑勲さんの解説文を自ら読んでいけるようにしたい。必要感の高まった場面での交流、解説文を書く手順に沿ったスモールステップの学習計画など、児童の目線に立って一つ一つに目的をもたせたい。

これまで児童は図画工作の学習で、4枚の西洋画の中から自分の好きな絵を2枚選び、自分の見立てを文に書く経験をしている。自分自身の過去の文と読み比べることで、本単元の学習を通して、自分の見方や考え方を伝える文章が書けるようになったという実感が得られるようにしたい。

解説文について

絵を見るだけでは解説文は成立しない。絵だけ見るのでは足りないことにも気付かせたい。高畑勲さんの解説文には、「国宝の絵巻物」であることや「アニメの祖」であること、この絵巻がつけられた時代背景などにも触れている。『鳥獣戯画』のバックデータについても知っていなければ書けないということに留意し、絵巻物『鳥獣戯画』についての資料も補助的に用意しておきたい。

児童が解説文を書くとき、1. 着眼点について考え、2. 構成を練り、3. 書き表す文体をどうするか、という手順になる。高畑勲さんは何となく絵を見ているだけではなく、着眼点を明確にしている。自分の

「何を伝えたい」をはっきりさせることで、使いたい書き方もはっきりしてくる。高畑勲さんの解説文の中から自分で判断して、一番必要な情報を読み取れるようにしていきたい。また、高畑勲さんは『鳥獣戯画』を「人類の宝」だと言っている。それに向かって、自分なりの絵の見方を披露し、絵巻物の価値を説明し、論を展開している。甲巻の中から自分の選んだ絵の見方や絵巻物『鳥獣戯画』を「解説文で魅力を発信する」という目的をもって、教材文の中から必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしながら、自分の見方や考え方を伝える文章を書く力を育てていきたい。

相手意識

少人数クラスで学習に取り組んでいるので、もう一つのクラスの友達に、自分の選んだ絵の「わたしはこう見る」を効果的に伝える解説文で発表したい。相手が決まることで使う文体、呼びかけ方、投げかけ方も決まってくる。高畑勲さんの解説文は教科書用に書き下ろされたものである。発信相手である友達に伝えるための文体、呼びかけ方、投げかけ方の参考になる情報を、本文から得たい。

学習環境

本学級の児童は、自分の力で文章を最後まで読んだり、粘り強く考え抜いたりする等、最後までやり抜く力が弱く、学習に向かう姿勢にも課題がある。全国学力・学習状況調査では、無回答率が高いものもあった。学習環境を整えるために、日常的に少人数指導を行っている。本単元の学習でも、学習に向かいにくい児童が集中して学習に取り組み、安心して自分の意見が言えるように、また授業者の支援が行き届くようにするために少人数指導を行う。

(4) 「読み解く力」に関わる目指す児童の姿とその育成のための手立て

【「読み解く力」の二つの側面】	【「読み解く力」の三つのプロセス】
A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力	①発見・蓄積：必要な情報を確かに取り出す
B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	②分析・整理：情報を比較し、関連付けて整理する
	③理解・再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する

本単元で設定した言語活動は、「解説文を書く」「解説文を書くために読む」ことである。自分なりの見立てを表現するために、まず、高畑勲さんの書き方を参考にしたいという思いをもたせる。そして、文章の中から必要な情報を発見し(A①)、整理したり(A②)、再構築したり(A③)していく。学習活動に必要な内容を示し、高畑勲さんが、「何」の「どこ」に着目し、どのような「意見」や「評価」をしているのか読み取らせるようにしたい。児童の課題解決のために、共に学び合う(B①、B②)時間を十分に確保し、自分なりの考えをもてるように(B③)したい。

第一次では、自分なりの見立てを解説文に書いて友達に伝えたいという思いや絵巻物『鳥獣戯画』に興味をもって好きな場面を選ぶことができるようにし、課題解決に向け、見通しをもてるようにする。

第二次では、自分が解説文を書くために高畑勲さんの書き方を読み、使ってみたい表現を見つけたり、見つけたことを自分の解説文に生かしたりしていくということを、交互に行う。その中で、自分が解説文を書くために「着眼点」についての情報を見つけるという目的をはっきりさせて、「何」を「どのように」感じ、それをどんな言葉で表現しているのか教材文の中から読み取る情報もはっきりさせたい。

「構成」についても、自分が一番伝えたいことを伝えるためという目的をはっきりさせて、高畑勲さんが「人類の宝」という一番言いたいことを伝えるために、読み手の関心を喚起する書き出しや、絵の細部に目を向けたり、絵全体に目を向けたりしながら、論を進めていることを読み取れるようにしたい。

「文体」については、友達に伝えるという相手意識をはっきりさせることで、教材文のどの文体を参考にできるのか、読み取る情報をはっきりさせたい。この読んだり書いたりを繰り返す中で出てきた「難しい」「分からない」という課題を解決させるために、必要感のある場面で話し合いの場を設定する。そ

のことによって、ただ何となく話し合うのではなく、友達とのやりとりで分からなかったことが分かるようになっていたり、これでよいのかともやもやしていたことがすっきりしたりするようにしていきたい。

第三次では、自分なりの見方を効果的に表現できたか、確かめ合う。全員が解説文を発表したり、十分な意見交流ができるようにするために、1クラス全体で構成したグループで活動を行う。また、自分自身ができるようになったことを実感できるようにするために、以前に書いた文と比べ、具体的に学びが実感できるようにする。学習を振り返り、自分自身の学びや成長を実感することで、これからの学習意欲も高めていきたい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・話や文章の構成や展開など、解説文の特徴について理解している。(1)カ)	・書くことにおいて、自分の見方や考えを伝えるために、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B書くことイ) ・読むことにおいて、自分で解説文を書く参考にするために、高畑勲さんの解説文から、必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C読むことウ)	・見通しをもち、必要な情報や論の進め方について考えたり、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えたりして、粘り強く解説文を書こうとしている。

5 単元の指導と評価の計画(全12時間、本時 3/12)

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
一	1	【学習計画を立てる】 ○P137とP139の絵の解説文を書くことに挑戦し、そこから学習計画を立てる。	・児童の「難しい」「分からない」を課題解決するための学習計画を立てる。 ・教科書教材の著者である高畑勲さんの一番言いたい「人類の宝」を伝えるための解説文であることを本文から読み取り、押さえておく。 ・児童の思考に沿った、1.着眼点について考え、2.構成を練り、3.書き表す文体をどうするか、という手順になるようにする。 ・ <u>児童の言葉を取り入れて学習計画を立てるようにする。</u>	□単元の学習に見通しをもって取り組もうとしている。(主)
	2	○絵巻物『鳥獣戯画』甲巻の中から好きな場面を選び、「わたしはこう見る」をメモにして書き込んでいく。	・高畑勲さんの絵をつなげて見る方法を取り入れようとする児童には複数枚選んでもよいこととする。 ・自分なりの見方を解説文で伝えるという目的意識をもった上で、 <u>絵から読み取ったことを書き込んでいく。</u>	□好きな場面を選び、自分なりの見方をしようとしている。(主)

二	3 本 時	<p>【着眼点】</p> <p>○高畑勲さんのものの見方について考える。</p>	<p>・「何」を「どのように」感じ、それを<u>どんな言葉で表現しているのかに注目させる。</u></p> <p>・<u>文の中から、事実と意見を分けて情報を見つけさせる。</u></p>	<p>□<u>事実と意見を整理して情報を見つけている。</u>（思判表Cウ）</p>
	4	<p>○自分の選んだ絵の「わたしはこう見る」を、高畑勲さんの書き方を参考にしながら表現する。</p>	<p>・前時の学習を生かし、教材文を読み返しながら、自分の見方を表現するようにする。</p>	<p>□<u>高畑勲さんの書き方を参考にしながら、自分なりの見方「わたしはこう見る」を表現している。</u>（思判表Bイ）</p>
	5	<p>【構成】</p> <p>○高畑勲さんが一番言いたい「人類の宝」を伝えるための論の進め方の工夫を考える。</p>	<p>・「<u>人類の宝</u>」という一番言いたいことを伝えるために、<u>読み手の関心を喚起する書き出しや絵の細部に目を向けたり、絵全体に目を向けたりしながら論を進めていることを、文章を内容のまとめりと整理して、短冊に書き示し、視覚的に捉えやすくする。</u></p> <p>・<u>ここで解説文の特徴についても触れておく。</u></p>	<p>□<u>読み手の関心を喚起する書き出しや、絵の細部に目を向けたり、絵全体に目を向けたりしながら、論を進めていること、また解説文の特徴について理解している。</u>（知技(1)カ)</p>
	6	<p>○自分の表現したいことを、部分に分けて整理する。</p>	<p>・これまで高畑勲さんの解説文を部分に分けて読んできたことを生かし、構成を考えるために、<u>自分の表現したいことを部分に分けて整理し、構成を考えやすくするための準備をする。</u></p>	<p>□自分の表現したいことを整理しようとしている。（主）</p>
	7	<p>○高畑勲さんの解説文を参考にしながら、自分の解説文の構成を組み立てる。</p>	<p>・<u>高畑勲さんの解説文を参考にしながら構成を考え、読み手の関心を引き付けるような書き出しをしたり、絵巻物についての情報、『鳥獣戯画』についての情報など必要な材料を集めたりする。</u></p> <p>・<u>疑問を投げかけて根拠を示しながら意見を述べるなど、より言いたいことが伝えられるような工夫を見つけた児童の意見を交流し、全体の学びへと広げる。</u></p>	<p>□<u>文章全体の構成などを基に、高畑勲さんは自分の考えをより適切に伝えるためにどのように論を進めているのか、どのように説得力を高めようとしているのかについて考えている。</u>（思判表Cウ）</p>

	8	<p>【文体】</p> <p>○解説文を書くときに使える表現・言葉を学ぶ。</p>	<p>・伝える相手が同じ学年のもう一方の少人数クラスの友だちであることを確認し、どのような文体で書くとより効果的に伝えたいことが表現できるのかを考えさせる。</p>	<p>□書き出しや文末の言い回し、説明や描写のための語句の選択などを理解している。(知技(1)カ)</p>
	9	<p>○前時に学習したことを活かしながら説文を書く。</p>	<p>・どれもこれも取り入れようとする工夫がありすぎて返って書きにくくなるので、<u>自分の考えをより効果的に伝えるために、取り入れたい高畑勲さんの工夫を選ばせる。</u></p>	<p>□相手に分かりやすく伝えるように、伝えたいことや知らせたいことを明確にし、首尾一貫した展開となるよう、論の進め方に注意して組み立てた文章を書いている。(思判表Bイ)</p>
	10	<p>【推敲】</p> <p>○自分の解説文を読み返し、自分の伝えたいことが効果的に表現できているか見直す。</p>	<p>・自分で間違いに気付くように読ませたい。<u>自分1人で気付きにくい場合は、友だちの力を借りて、推敲できるようにする。</u></p>	<p>□間違いを正したり、「わたしはこう見る」を伝える解説文として適切な表現になっているか確かめたりして文や文章を整えようとしている。(主)</p>
三	11 12	<p>【交流する】</p> <p>○自分なりの見方について効果的に表現できたか、確かめ合う。</p> <p>○単元を通して身に付いた力を確かめる。</p>	<p>・<u>解説文を発表し、十分な意見交流ができるようにするために、1クラス全体で構成したグループで行う。</u></p> <p>・自分自身ができるようになったことを実感できるようにするために、<u>以前に書いた文章と比べ、具体的に学びが実感できるようにする。</u></p>	<p>□単元を通して学んだことを振り返り自己評価しようとしている。(主)</p>

※「読み解く力」に関わる留意点や評価規準については、Aは下線、Bは波線で示す。

6 本時の目標（本時：3／12時間目）

自分の選んだ絵の「わたしはこう見る」を表現するために、高畑勲さんの文の中から、高畑勲さんの着眼点や見方を事実と意見に分けて情報を見つけることができる。(思判表Cウ)

7 本時の評価規準

高畑勲さんの文の中から、事実と意見に分けて情報を見つけている。(思判表Cウ)

8 本時の展開

	主な学習活動等	指導上の留意点（・） 評価規準（□）
13:30 5分	1. 自分の選んだ絵の「わたしはこう見る」を絵に書き込んだメモを見直す。(3分)	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん書き込みのある児童には、どんなところを解説したいのか絞るように伝える。 ・表現したいという意欲を高めるために、「わたしはこう見る」を再確認させる。 ・「メモしたけど、文章で表現できるかな」「自分が選んだ視点はこれでいいのかな」という不安な気持ちを「高畑勲さんはこう見る」で確認することを伝え、学習のめあてにつなげる。
	2. 学習のめあてをもつ。(2分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の見通しがもてるようにする。 ・「わたしはこう見る」を解説文に書くために、「<u>高畑勲さんはこう見る</u>」を明らかにしよう」という学習めあてをもち、着眼点について教材文から学んでいく。
13:35 30分	3. 自分の解説文に生かすために、高畑勲さんは「何」の「どこ」に着目し、どのような「意見」や「評価」をしているのかを明らかにする。 ①全体で学習の仕方を確認する。(10分) ②1人で考える。(5分) ③グループで話し合う。(15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・高畑勲さんは絵のどんなところを見ているか、「何に注目しているか」「注目した部分について、どのように描いているか」について考える。<u>解説文を書くときに教材文を参考にしやすくするために、教材文に「何に注目しているか」(事実)に直線、「注目した部分について、どのように描いているか」(感想・意見)に波線を引く。</u> ・<u>学習の仕方を学ぶために、136ページ5行目から137ページ6行目までを全体で学習し、138ページ10行目から140ページ11行目までをグループで話し合う。</u> ・まず、1人で考える時間をもつ。「これで合っている？」と自信のもてない児童、「分からない」と困っている児童の課題を解決するために、<u>グループで話し合う。</u> □<u>文の中から必要な情報を見付け、事実と意見を分けて情報を整理している。(思判表Cウ)</u> ・<u>グループで話し合っても解決しなかったことがあれば、解決するために、全体で話し合う。</u>
14:05 10分 14:15	4. 学習を振り返る (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>まとめたことを交流し、本時の学びを確かめ合う。</u> ・本時の学習を振り返り、自分ができるようになったことや、まだ分からないことをまとめる。

※「読み解く力」に関わる留意点や評価規準については、Aは下線、Bは波線で示す。

9 授業参観の視点

- ①活動に必然性があり、児童が目的意識をもって学習に取り組んでいるか。
- ②自分の見立てを表現するために、高畑勲さんの文の中から必要な情報を読み取ることができていたか。